

## 「ともに生きる社会」を実現するために

岡部 耕典（早稲田大学）

〇はじめに

〇「<sup>い</sup>ともに<sup>しゃかい</sup>生きる社会」の<sup>じつげん</sup>実現のために

ともに生きる社会かながわ憲章～この悲しみを力に、ともに生きる社会を実現します～  
（前略）

このような事件が二度と繰り返されないよう、私たちはこの悲しみを力に、断固とした決意をもって、ともに生きる社会の実現をめざし、ここに「ともに生きる社会かながわ憲章」を定めます。

- ー 私たちは、あたたかい心をもって、すべての人のいのちを大切にします
- ー 私たちは、誰もがその人らしく暮らすことのできる地域社会を実現します
- ー 私たちは、障がい者の社会への参加を妨げるあらゆる壁、いかなる偏見や差別も排除します
- ー 私たちは、この憲章の実現に向けて、県民総ぐるみで取り組みます

平成 28 年 10 月 14 日 神奈川県

「<sup>い</sup>ともに<sup>しゃかい</sup>生きる社会」とは<sup>だれ</sup>誰もが<sup>ひと</sup>その人らしく<sup>く</sup>暮らすことのできる<sup>ちいきしゃかい</sup>地域社会

〇〈<sup>こっか</sup>国家〉の<sup>せきにん</sup>責任／〈<sup>わたし</sup>私 たち〉の<sup>せきにん</sup>責任

<sup>つく い</sup>津久井やまゆり<sup>えん</sup>園とはどのようなところなのか

1964 年創設：「全国初の重度知的障害者専門施設」

<sup>だい き ぼ</sup>大規模コロニーという〈<sup>せい さ く</sup>政策〉

コロニー(colony)：「他の土地に永住目的で集団移住すること」

「劣悪な状況下にあった障害者の地域生活の救済・保護を国家・社会の責務としておこなうため」という理由で、60年代後半から70年代半ばにかけて、日本の各地に建設された200～800人前後の大規模施設」

くに<sup>くに</sup>の責任<sup>せきにん</sup>

わたし<sup>わたし</sup>の<sup>て</sup>手も汚<sup>よご</sup>れている

かぞく<sup>かぞく</sup>もまた<sup>とうじしゃ</sup>〈当事者〉である

○「北風」ではなく「南風」を吹かせよう

ニューハンプシャー<sup>しゅう</sup>州<sup>だつしせつか</sup>の脱施設化<sup>せいこう</sup>はなぜ成功したのか

- (1) 地域での自立生活支援を当事者の権利として保障し財源を保障する法律の制定(1975年)
- (2) 「入りたくない人は入らなくてすむ」地域自立生活支援の保障(ポジティブな焦点化)
- (3) 期限を区切らず、「出たい人から出ていく」地域移行(ネガティブな焦点化はしない)
- (4) 段階的な入所者減に対応した施設職員の計画的な再教育と地域支援職への転換

しせつかいたい<sup>しせつかいたい</sup>「施設解体」ありきではなく、まず<sup>ちいきせいかつしえん</sup>「地域生活支援の保障」<sup>ほしょう</sup>を

○「その人らしく暮らす」ための支援<sup>しえん</sup>のかたちとは？

にしこまごう<sup>にしこまごう</sup>西駒郷<sup>ちいきいこう</sup>の地域移行<sup>まな</sup>から学ぶ

とりのこ<sup>とりのこ</sup>残り<sup>ひと</sup>される人たちが<sup>で</sup>出てはならない

うけざら<sup>うけざら</sup>受け皿となるグループホーム<sup>かた</sup>のあり方

グループホームとは…

- ・ 地域社会の中にある住宅(アパート、マンション、一戸建て)において
- ・ 入居を希望する者 4～5人
- ・ 精神薄弱児施設、精神薄弱者援護施設(入所)が、入所者の保護、指導、訓練等入所等の全生活の援助を行うのに対し、…(中略)…グループホームは、必要最低限のケア(世話)の提供を受けながら地域生活を送る拠点である。

「グループホームの設置・運営ハンドブック」(1987年発行)

じゅうどほうもんかいご<sup>じゅうどほうもんかいご</sup>重度訪問介護<sup>かつよう</sup>の「活用」も！

## 【映像】 I am Ryosuke! (撮影・央戸大裕)

息子・亮佑（療育手帳2度・支援区分6・行動援護対象者）

- ・2002年から自立生活センターグッドライフの「介護」を利用（月30～150時間）
- ・2014年5月1日から、重度訪問介護を利用（切り替え）

531時間／月うち移動介護81時間

※通所施設利用時間以外24時間の常時見守り支援を受けている。

資料1 「施設の建て替え問題から考える ――重度障害者が自立して地域で生活すること、それを実現する支援とは」（ヒューマンライツ2017年8月号掲載予定・草稿）

資料2 「長時間の介護を利用し自立生活をしている知的障害者の生活はどのように成り立っているのか」

資料3 「パーソナルアシスタンス制度の確立」に向けた課題」（『月刊福祉』2017年1月号）

資料4 知的障害者が「自分の家」で暮らすための支援 ―アメリカ・カリフォルニア州のサポーテッドリビング・サービス」（『ノーマライゼーション』2009年12月号）

